

第4回里山フェスティバル「里山シンポジウム」

主催者代表挨拶

城西大学理事長、城西国際大学学長 水田宗子

皆様こんにちは。ただいまご紹介いただきました、水田宗子でございます。城西国際大学の学長、そして学校法人城西大学の理事長を致しております。本日は第4回里山シンポジウムの開催、大変おめでとうございます。また城西国際大学を開催の地としてお使いいただくということで、私どもは大変うれしく、名誉なことだと思っております。本日はよい議論がたくさんできて、将来に向けてのよい一歩を踏み出すことができますよう、心から祈念しております。



私どもの大学は1992年に東金市から誘致を頂きまして、大学を開設いたしました。学校法人城西大学は埼玉県にキャンパスをもつ大学で、既にそこで40年ほど教育をしていましたけれども、千葉県の東金市から大学をつくるようにと誘致を頂きまして、ありがたくここに大学を設置させて頂いたわけでございます。

その誘致の理由のひとつには、この山武、九十九里、外房、南総にかけては大学がない、言葉は悪いのですが、教育の進学率が全国平均を下回っているところでした、そういう意味でも文科省もここに大学をつくることを大変推薦し、支援をしてくれたのだと思います。また、創立者の水田三喜男は千葉県鴨川

市曾呂村の出身でございます。埼玉県に大学をつくっておりましたけれども、いずれ千葉県に次世代を育成する場をつくりたいというのが望みであったと私どもは考えております。

その開設の準備をするためにこの東金の地に足を運ぶようになりまして、私は、この千葉県の山武地域、そして九十九里から外房線の地域、そして鴨川へ参りますために内房線を通って参りました時に、千葉県がいかに素晴らしい、日本の古い農耕文化のあり方、生活様式を残しているところであるかということに心から感激をいたしました。私は、外国で教鞭をとることが非常に長かったもので、外から日本を見た場合、日本に帰ってきた場合、日本の本当のよさというのが何であるかということを経験する年月が随分ありましたが、千葉県に参りましてやはりここは私の故郷なのだという気持ちをとっても強くしましたのは、個人的なことと同時に、日本文化が生活を通して守ってきたと同時に、その生活様式というのが自然の中に包まれて残っているというのをつくづく感じまして、そして今堂本知事からもお話がありましたように、里山や里海が荒れ、開発の中で変わっていくことをこの目で実際に見ていますと、国や自治体の政策が大切であり、また市民のみなさんの努力も非常に大切なのですけれども、やはりこれを引き継いで未来につなげていく次世代の育成ということがどれだけ大切であるかということを経験しております。

それに賛同して下さった教職員のみなさんがここで人材育成ということをはじめたわけでございます。私どもも、後継者塾やプロジェクト教育というのを立ち上げて、棚田の整備のお手伝いや、棚田の四季をめぐる生活の様子をアーカイブスとして撮っておこうと、メディア学部が学生たちが田植えをしたり稲刈りをしたりするだけではなく、それを残していくことをしたり、林道や桜並木の修復をしながら学生たちが里山に入っていくって実際に労働をすることによって、そこをメンテナンスすることの大変さと大切さとその結果の素晴らしさを身をもって体験してもらうことによって、次世代の人たちが日本の素晴らしい生活様式であり文化である里山、里海をしっかりと守って、またその次の世代につなげていくようになってくれることを考えております。

私どもはまた、鴨川市から誘致を受けまして観光学部を設立いたしました。観光というのは国の大きな経済資源であります。先ほど堂本知事がおっしゃいましたように、人を驚かすような景観というのが、または非常に大きなエンターテインメントの施設というのが観光のポイントというのではないので、これからは21世紀には大きく観光が変わり、自然の中でもう一度心身を癒し再生していく方向に向かうのではないかと考えております。

そういう意味でも、この千葉県が持っている非常に豊かな里山や里海、そして千葉県に住んでいる皆さんがしっかりと行政と手を結び、市民の方たちと一緒に守っていくということが、これからの日本の繁栄のためにも大切なことではないかと考えております。そういう意味でも私たちは教育の場でそういうことがしっかりとわかり、そういう思想を身体の中にもって生活していくという次世代の人たちが一人でも多く

輩出できるようにしていきたいと思っております。

城西大学 40 周年を記念しまして、鴨川にあります創立者の民家を再生いたしました。そしてそれは重要文化財登録になったのですが、ここでも千葉県にはいかに民家が少なくなってしまうかということを感じまして、この民家のもっている合理性や環境管理にもいかに考えられて造られているかということも痛感しましたがけれども、そういうプロジェクトにも学生たちに参加していってもらいまして、そこから学んでいってもらう。そういう実体験を教育の場で進めていきたいと思っております。

これからも、城西国際大学を地域の皆様、それから千葉県を始めとして日本の政策立案される皆様と手を携えまして、環境を良くし、保全していくことに力を尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご支援を賜りたいと思っております。

本日は農林水産省の福井先生、堂本知事様、志賀市長様、ご出席の市民の皆様でおつくりになっている里山シンポジウムでありますから、大変意義の深い議論も出て、様々な報告もあることと思います。

どうか、今日の成果をこれからのご活動につなげていっていただきますようご成功をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。